

## 足立区基本構想審議会 第1回くらし専門部会 会議録

日 時 平成27年9月14日（月曜日） 午前9時30分から11時30分

場 所 足立区役所南館 12階 1205B 会議室

出席者 足立区基本構想審議会 くらし専門部会委員（8名）

石阪督規委員、小久保兼保委員、鈴木健文委員、大塚和夫委員、益留有紀委員、馬場信男委員、たがた直昭委員、おぐら修平委員

事務局 政策経営部長、政策経営課長、基本構想担当課長、経営戦略推進担当課長、基本構想担当係長、(株)地域計画連合

オブザーバー 地域のちから推進部3名、産業経済部1名、衛生部2名、福祉部4名、環境部1名、子どもの貧困対策担当部1名

議題等 1 部会長および副部会長の選出

2 今後の討議の進め方

3 基礎情報、これまでの審議会意見、財政状況及び区民が考える将来像（報告）

4 意見交換（現状と将来の課題の整理）

5 事務連絡

資 料 【資料 く①】足立区基本構想審議会 くらし専門部会名簿・日程

【資料 く②】今後の討議の進め方

【資料 く③】くらし専門部会 基礎情報及び審議会意見一覧

【資料 く④】区の財政見通しについて

【資料 く⑤】くらし専門部会 課題整備及び将来像等検討シート

【資料 13】「区民あだちサロン（座談会）」及び「中高生ワークショップ」  
将来像

## 1 部会長および副部会長の選出

基本構想担当課長：皆様、おはようございます。定刻になりましたので、ただいまより足立区基本構想審議会第1回くらし専門部会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は事務局の基本構想担当課長、山本と申します。この後、専門部会の部会長、及び副部会長が選出されるまでの進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、専門部会の開催中は、事務局の他にオブザーバーとして関連する区の職員にも出席させていただきます。本日は地域のちから推進部・産業経済部・福祉部・衛生部・環境部・子どもの貧困対策担当部の職員です。本日の審議の内容を今後の計画や事業運営等に活用させていただきますが、必要に応じて事業等に関する質問がございましたら回答させていただきます。ただし、担当事務の関係などでこの場でお答え出来ないものは、後日の対応などとさせていただく場合もございますのでご了承をお願いいたします。

それではお手元の資料の次第をご覧ください。1番目の部会長及び副部会長の選出です。足立区基本構想審議会条例施行規則第4条に基づき、各専門部会の部会長には議事の整理を、副部会長には部会長に欠席等の事故があった場合の代理を務めていただきます。共に委員の互選により決定いたします。恐れ入りますが、次第の次にございますくらし専門部会委員名簿をご覧ください。まずはこの中から部会長の選出からです。どなたがよろしいでしょうか。

小久保委員：石阪先生に。

基本構想担当課長：ただいま学識者委員の石阪委員とのお声がありましたが、石阪督規委員は、区内の東京未来大学モチベーション行動科学部教授でいらっしゃいまして、これまで社会学等における数々の学会発表もございます。さらに足立区の行政評価における区民評価委員としてもご尽力をいただいております。部会長としてご異存がないようでしたら、拍手でご承認をお願いいたします。

(拍手)

基本構想担当課長：ありがとうございました。それでは石阪委員に部会長をお願いしたいと存じます。続きまして、副部会長についてはいかがいたしましょうか。

石阪部会長：小久保委員を。

基本構想担当課長：ただいま小久保委員とのお声がありましたが、小久保兼保委員は、足立区障害者団体連合会会長でいらっしゃいまして、区政運営においても多大なご協力をいただいております。副部会長としてご異存がないようでしたら、拍手でご承認

をお願いいたします。

(拍手)

基本構想担当課長：ありがとうございました。それでは小久保委員に副部会長をお願いしたいと存じます。ここからは石阪部会長に進行をお願いしたいと存じます。

石阪部会長：ただいまご指名をいただきました石阪です。よろしくお願いいたします。これから3回にわたって専門部会を開催させていただきます。今まで皆さんは、どちらかというと人数がたくさんの中で意見を出すのは難しかったと思うのですが、今回は、くらしに関わる部門について前回までの意見がまとまっていますが、今日はこちらに皆さんにいろいろ加えていただいて、特にこの分野は非常にジャンルが広いものですから、いろいろな課題や現状というのが出てくると思いますが、今日は皆さんからご意見を伺って、3回目にはそれを形にして、また全体会の方に戻るプロセスになります。ただ、環境として周りからのプレッシャーが少しありますので、議員の先生方は慣れているかもしれませんが、我々は普段のゼミではこんな感じはあまりありません。ですので、今日はこの中はゼミの雰囲気、気軽に皆さんが意見を出せる形にしてください、ご自身の課題、いわゆるお立場に関わらないものでもかまいません。いろいろと足立区の課題や現状についてご意見をいただければと思います。また、これを今後理念等々にまとめてまいりたいと思いますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。また、適宜皆さんご質問やご意見等ありましたら、議事の途中でもかまいませんのでご発言をいただければと思います。

それでは審議に入ってまいります。まずは配付資料の確認を事務局からお願いします。

基本構想担当課長：事務局から本日の配付資料の有無を確認させていただきます。最初に本日の次第です。続きまして資料く①と表示のあるくらし専門部会の委員名簿と日程です。続きまして資料く②と表示の今後の討議の進め方です。続きましてA3版で資料く③と表示のくらし専門部会基礎情報及び審議会意見一覧です。続きまして同じくA3版で資料番号はございませんが、表題が足立区基本構想審議会第1回くらし専門部会追加資料というものです。続きましてA4版の資料く④、区の財政見通しについてです。続きましてA3版の資料く⑤と表示のくらし専門部会課題整理及び将来像などの検討シートです。続きまして資料13と表示の区民あだちサロン及び中学生・高校生ワークショップ、私たちの考える足立区の将来像ですが、全体会でも配付したものをさらに有効活用していただきたく再度配付させていただきました。最後に、委員の皆様には参考として、前回の会議録を配付してございます。26ページとなっております。以上、資料にご不足はございませんでしょうか。以上です。

## 2 今後の討議の進め方

石阪部会長：続いて次第2にまいります。今後の討議の進め方です。こちらでもまた事務局から説明をお願いします。

基本構想担当課長：それでは資料く②と表示の今後の討議の進め方をご覧ください。前回までの全体会では、検討素材や区民あだちサロンの意見などもご参考にしていただきながら、足立区が置かれている現状や、これまでの区の取り組み、将来の課題等について意見交換をしていただきました。そして、各専門部会に調査を付託された項目が、資料の1の①、将来像、目指すべき将来の姿を示す都市像と、②将来像を設定した根本となる考え方、基本理念です。三角の図をご覧ください。一番下の基本計画を除いた項目が基本構想に当たります。部会としての区の将来像とそれを設定した根本や背景である基本理念を3回の部会で考案していただき、その後の全体会でまとめていくこととなります。将来像を実現するための基本的な方針についても、全体会での討議となります。なお、将来の時期のとりえ方については、10年後から30年後ぐらいまでの間ということでお考えいただきたいと存じます。

続いて下の2の検討プロセスです。表の太枠部分が部会としての将来像や基本理念を考案するためのプロセスです。専門部会の第1回、本日については現状と将来の課題について、全体会に引き続きましてくらし分野として意見交換をしていただき、その論点などを整理していただきます。それを元にしたまとめの案を次回の第2回でお示ししますので、第3回目までの討議を重ねながら固めていっていただきたいと存じます。表の下半分は全体会についてとなっております。

石阪部会長：今の事務局の説明にもありましたが、資料2をご覧くださいと、三回の専門部会に分かれていて、今日は1回目なのですが、ここでは意見出しということが書かれており、2、3となるに従って、最終的にはこの部会として将来像と基本理念、これを取りまとめることになっております。長さについては、大体30年先ぐらいまでを見越してということですので、誰が生きているか生きていないかは別にして、少なくともイメージするのは自分の子どもや孫が成長した時に、ではどういう足立区になっていてほしいのか。このあたりを一つの基準として、例えば将来像であれば単語としてどういうものを挙げるべきなのか。それを説明する背景として、例えば健全な自治体運営がなされているとか、人権が尊重されるまちとか、そういう足立区はどこに力点を置くかというところを皆さんで考えていきます。これだけのテーマがありますので、逆に最初から絞り込んでしまうと非常に小さくなってしまいますので、皆さんの意見を出しながら、この辺が皆さんで力を入れるべきだと思っているということで集約していくのが一番よいのかなと思っています。皆さんにおかれましては、まずは1回目に関して言えば、皆さんのご意見を自由に伺う場で、皆さんに遠慮なく言うただければと思っています。極端に言うと、本日は議論がまとまらなくてもよいと思

います。日頃の思いや考え、特に 30 年後のまちがこうなってほしい、こうなるべきだということを視野に入れながら、またお話をいただければと思っています。

このような形で進めていくということで、ここまでで何かありますか。基本構想というのは、つまりこのピラミッドで言う上の将来像、このあたりを皆さんと一緒に議論をして決めていこうというスタンスであります。よろしいでしょうか。

以後、ご発言をいただく時は、記録を取るということですので、お名前をお願いします。私から当てる時はさん付けで全員呼ばせていただきたいと思います。自分からご発言される時は、名前をよろしくお願いいたします。それではもしご質問がなければ、次第 3 に行きたいと思います。

### 3 基礎情報、これまでの審議会意見、財政状況及び区民が考える将来像

石坂部会長：これも事務局から説明をお願いします。

基本構想担当課長：それでは後の意見交換の際にご活用をいただきたい資料 4 点についてご説明します。まずは A 3 版の資料く③と表示されたくらし専門部会基礎情報及び審議会意見一覧をご覧ください。上の段にあります基礎情報は、検討素材の中から区の現状、社会動向、現行基本構想に対する区の実施など分けて、主な項目の見出しを抽出したものです。下の段は、第 1 回から第 3 回目までの審議会全体会でいただいた意見を、くらし分野に関する分と、4 専門部会共通と捉えた分について、それぞれ現状と将来の課題に分類したものです。

続きまして A 3 版で資料番号のない、表題が足立区基本構想審議会第 1 回くらし専門部会追加資料というものをご覧ください。こちらは本日都合によりご欠席の須藤委員から、今年度の事業計画等を進めていく上で問題となっている点を示していただきたいと事前にいただきましたので、すべてではございませんが回答させていただきました。こちら先ほどの資料と同様にご活用いただきたいと思います。中をかいまみますと、2 番の（1）が町会・自治会の加入率について。（2）が美化推進事業。（3）が住区センター管理運営事業。（4）生涯学習センター・地域学習センター。（5）孤立ゼロプロジェクト。右側に行きまして（6）、区内経済の活性化。（7）都市型農業の推進です。なお、右側の下の段の通り、検討素材の 16 ページにございます区の実施と成果のうちの⑤、都市型農業の推進について、この場をお借りして修正させていただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

続きまして A 4 版の資料く④、区の財政見通しについてをご覧ください。これは第 3 回審議会での介護などの扶助費は増加しても、税収が増えないことをどのように認識するかが大事なため、データで示すようにというご要望がありましたので、それに基づき作成したものです。将来の財政状況については、第 2 回審議会での資料 9 でもご報告しましたが、その際は扶助費や施設更新経費等は伸びていくと予測しておきながら、区の歳出総額は計画上抑えていくという説明をしたのみでした。今回はこれま

での決算状況を元にして、増加し続ける区の歳出総額と、一方で伸び悩む税収がかけ離れていく見通しであるとお示しするものです。中ほどのグラフについてはいろいろ重ね合わせていて補足が必要ですので説明させていただきます。左側の2本の棒にご注目ください。このうち左が平成13年度の歳入の総額で、右側が歳出総額となっております。2本でセットとなっております。14年度以降も歳入と歳出の2本を並べています。13年度の左の棒で緑色の部分が区民税の収入です。その上にある青色部分が23区の財政状況に応じて東京都が交付する財政調整交付金です。この緑と青の合計額について、点で各年度を結んでいくとほぼ一直線に示せます。次は13年度における右の棒についてです。ここで訂正がございます。正しくは赤色部分が普通建設事業費の支出、その上にある紫色の部分が扶助費の支出です。逆になっておりました。大変申し訳ありませんでした。この赤と紫の合計額についても、点で各年度を結んでいくとほぼ一直線に示せますが、将来的には逆転してしまうようにも見えます。つまり、歳出に対して歳入が不足していくこととなれば、例えば歳出を見直していくか、あるいは歳入を増やしていく、そういった対策が必要になると考えます。関連しますが、上の方に記載の1番、歳入についてをご覧ください。次の行、財政調整交付金は、平成28年度より約60億円の減収が見込まれ、こういったことからさらに深刻な状況となる予想です。

裏面をご覧ください。先ほどは区の一般会計についてでしたが、こちらは介護保険特別会計のうちの給付費について、事業計画を元に棒グラフでお示しました。要介護者の増加などにより、平成27年度の489億円が37年度には685億円と大きく増加します。これらは主に区民の介護保険料負担に影響してくるという問題もありますし、緑色の線である区の負担額も大きくなる状況です。27年度の61億円を、先ほどの一般会計の中で負担しているのが、37年度には86億円の負担となる見通しでございます。

続きまして資料く⑤の検討シートは、後の意見交換の場でご使用いただきます。

その次の資料13、私たちの考える足立区の将来像につきましても、区の良いところと不足するところがたくさんございますのでご覧いただきたいと思います。特に7ページ、8ページは、将来像の考案の参考にしていきたいと思いますと存じます。

石阪部会長：今いろいろな数字等々出てきましたが、例えば犯罪などは大幅に減っていますし、要介護度は確かに増えているのですが、いろいろなものを見ていくと、むしろこの10年間で足立区は大きく変わってきたという印象があります。つまり、10年前に作った同じようなものがあったと思いますが、着実にこれを前に進めてきているということです。ところが、今後30年たってみると、先ほど財政状況もありましたがかなり厳しいです。23区ですから他の自治体とは違うのかもしれませんが、かなり厳しい状況は間違いありません。先回の議論の中でも、この財政を踏まえて将来を考えていかなければいけないという縛りはあったと思うのですが、私は必ずしも財政が悪いということだからこれは出来ない、あれは出来ないと消極的にやっていって区が小さくまとまるよりも、まずは区として大事なことや、将来必ずこうあってほし

いという皆さんの思いとか将来に向けての期待みたいなものを、出来ればこの基本構想の中に入れていたいと思っています。財政はおそらくその後かなと思います。実際にそれをやっていく時に、どこを我慢してもらうべきなのかとか、どこをどう変えていくべきなのかというのが次の議論として出てくると思います。まずは、おそらく10年前にこういった議論をした時に、足立区は大学もなかったのですね。それから犯罪もまさか半分になっているということも当時は想像出来なかったと思います。いろいろな意味で今足立区というのが大きく変わっている中で、この流れをさらに加速させて、同じような方法で行くべきなのか、いや、これはこれでいったんある程度ここまでは来たけれども、もっとこういった新しいベクトルで23区の中でこういう区を目指すべきなのではないかという意見が出てきてもいいと思います。

だから私は、言い方は悪いですが、普段の議会の中で議論している現実的な議論よりも、もっと無責任でもいいからこういう区になってほしいとか、もっとこういうふうにすべきなのだというのを大胆に言っているいい場だと思っています。これをあとは区当局であったり、議会の中で現実的にどうするかという働き掛けをしていただければいいと思うので、今日に関して言えば、まずは前を見ていただくと分かると思うのですが、現状というブルーのところ、後で説明しますが、かなり課題が多いです。今の足立区が抱えている問題ですが、例えばこの中にもありましたが、自治会の加入率が減っているとか、あるいは例えば産業で言えば中小企業の数も伸び悩んでいるし、工業出荷額も伸びていないという話があると思うのですが、医療や生活保護の問題も出てくると思います。こういった課題がある中で、将来への課題、これは黄色で書いてあるのは将来の課題と書いてありますが、比較的提言的なものでこうした方がいいとか、こんなふうになるとよいみたいな前向きな議論も書いてありますから、今日は皆さんにある程度このあたりを踏まえながら、では現状どういう課題があるのか、将来に向けてどうすればこの課題が克服出来るのかということを議論いただければと思います。そういう意味では、議会の議員の皆さんと委員の皆さんが一緒の席でいろいろなお話が出来るというのは非常に有意義な場だと思っていますので、ここに今課題はいろいろ挙がっていて、皆さんが引っ掛かってくる課題が結構あると思います。これを今日は出していただきたいと思います。そして2回目、3回目以降で、これをある程度収斂させてまとめていくという作業をしていきたいと思っています。1か月以上にわたる長期間の作業になりますので、まず今日は意見出しということです。それから、前回もそうですが、今日いただいた資料の中で特にここは重要だとか、中高生の若い意見、単身者や二十歳、子どもたちの意見なども入っていますので、こういったことも踏まえながら、この辺の視点は活かしていこう、大事だよと、こういった発言も皆さんの中から出てくるといいなと思います。

皆さんから進め方とか、方法的なものについてご意見はございませんでしょうか。

おぐら委員：先ほど会長がおっしゃった通りで、多分これは議会関係者だけの話になると思うのですが、どうしても我々財政が限られたパイの中での現実的なところばかりどうしても目を向けてしまいがちになると思います。逆に、それぞれ皆さんの専門

分野の中で、現場にいらっしゃる皆さんであるからこそ一番知っている状況の中で、どうしてもその枠組みで捉えがちになるというのはすごく感じたところで、そういうのを取っ払ってまさに 30 年後ですから。よく考えたら、10 年前なんていうのはまさに今の足立区は想像出来ない状況になっていますので、そういうことを財政ありきではなく、まさにこれからやりたいことを思い切った意見を出していければよい議論が出来ると思います。

石阪部会長：ただ、現実的には財政は厳しいですね。何も出来ないよと思うかもしれませんが、そういう話もありますが、とにかく財政は減っていくだろうという認識は、皆さん多分全員が持っているところなので、一つは先ほどもありましたが、ではどうすれば増えるかという議論と、どうすれば圧縮出来るかという議論になってくると思うのですが、これはまた議論の途中で出てくるかもしれません。ただ、収益を上げていく試みというのは必要だと思います。この辺はどちらかというと悲観的にならずに、前向きな議論を心掛けたいと思います。

#### 4. 意見交換

石阪部会長：それではもしご質問・ご意見等なければ次第 4 の意見交換に入っていきたいと思います。あと時間が 1 時間半近くありますので、意見交換に入ってまいりたいと思います。まずは資料 5 のシートがありますが、1 回、2 回、3 回とあって、左側の方にくらし専門部会の課題、第 1 回専門部会とありますが、ここに掲載すべき内容が今日の議論によって皆さんからいただいた意見をまとめてここに書くことになります。これだけ見て、では皆さん意見をお願いしますと言ってもなかなか出ないと思いますので、今日はホワイトボードに今まで出てきた意見、特にくらし分科会に関わることや全体に関わることをまとめていただきましたので、これを見ながら皆さんにいろいろ意見を出していただきたいと思います。ポストイットに書くというのはいかがでしょうか。それとも意見を言って、どなたかに書記になってもらって書いた方がよろしいでしょうか。

では、まず私が前に行きますので、皆さんから意見が出ればそれでもいいのですが、出なかった場合は書いてもらってもよいのではないかと思います。先ほど申し上げたように現状がブルーです。将来の課題は黄色になっていますが、端から見ていくと、「中学生から思いやり・交流などが出るのは、地域が危機に陥っているからだ」という意見です。例えば「人間の心の教育がなくなれば、今後さらにひどい状態になる」、「ビューティフルウィンドウズ運動による治安の向上は良い」、それから、「障がい者の方に目を向けた施策展開が重要である」、これは現状に対して。それから、「高層マンションではコミュニティが自然に発生しない、何らかの仕掛けが必要」、「自治会・町会の加入率が低下している。実態として活動していない」、この辺が一つ課題です。それから、「親元に住む若者が増えている」というのはどうなのでしょう。



悪いかよいかは別にして、昔よくサザエさん型の居住はよいと言う、3世代型で住むのはよいと言う人もいれば、逆にパラサイトシングルのように親からいつまでも援助を受けて自立しない若者とどちらにも取れます。それから、「人口は増えているが、事業者数は工業出荷額等が減少している」。つまり人は増えているけれども、事業所数・工業出荷額が落ちているということは、経済的な基盤が弱くなっているのではないかという意見です。それから例えば医療について、「在宅医療の名簿を作って協力を求める」、それから「生活保護の中には働きたいけど働けない人もいる。高齢者や介護など」、それから「在宅医療・在宅介護は扶助費の抑制につながる」というような現状のほんの一部について、おそらくそれぞれ足立区にお住まいになったり、足立区で働いていて、この辺が課題だと思われます。ここはまず皆さんから、足立区の抱える課題みたいなものをいただきたいと思います。黄色は将来の話ですので後です。いかがですか。

書いていきましょうか。ではもしよろしければポストイットをお配りしてよろしいでしょうか。皆さんが特に今足立区で課題だと思っている点、特にくらし部門に関わる、くらし部会に関わる場所です。例えば、この辺はコミュニティに関することであったり、ビューティフルウィンドウズの犯罪であるとか、環境の問題などもここに入ってきます。それから、この辺は産業に関わる部分です。それから、この辺は福祉や医療・介護に関わる場所。それから若者の自立、高齢者対策。では今から5分ぐらい時間をあげますので、お一方絶対に2枚は書きましょう。皆さん、中学生の出した意見など、諸々今までの資料を見て、これだと、ここだということでもかまいません。まずは現状の足立区の課題というのを皆さんからいただければと思います。

課題というのは、裏を返せば30年後にはこの課題は克服されていてほしいという思いで書くわけですから。現在はこうですが、何とかならないかと。

石阪部会長：皆さんに書いていただいたのは、議論の口火を切ることと、あとは簡単な自己紹介もしていただこうと思っていますので、それを出しながらこんなことを自分は考えていますと最初に言って、あとはどんどん皆さんから出てくるものを書いていただくことになると思います。たくさん緑色が出てくることを期待して、一番最初に書き終わった益留さんから順番で行きましょうか。

益留委員：東京未来大学のモチベーション行動科学部に在籍しています益留です。私は、足立区に関わるようになったのは大学生からなので、10年前のことはよく分からないのですが、今の足立区を見て言えること、大学生だから考えられることがたくさんあると思うのでよろしくお願いします。

石阪部会長：では課題を。「学生が通うだけの足立区」。これはどういうことでしょうか。

益留委員：私もそうですし、私の周りの友達もみんなそうなのですが、ただ足立区に

学校があって、足立区に通うだけで、学校が終わった後はそのまま帰ってしまったり、遊びに行くにしても足立区を出てしまうというのがとても多いです。だから、学生が北千住のどこかに寄って帰ろうと思えるような商業施設だとか、ちょっと寄って帰れる洋服屋さんがいっぱいあるなど、そういう施設がないと感じて書きました。

石阪部会長：せっかく大学がたくさんあるにも関わらず、学生があまりまちに出ないで、いわゆる北千住から電車に乗ってどこかに行ってしまう。いわゆる学生街のようなものは出来ずに、学生街が出来るというのは一つの若者文化が生まれて、下北沢であったりとか渋谷であったりとか、都心には多分いろいろな学生街があるのですが、そうならないのがある意味で一つの課題であると思われます。

では二つ目に行きましょう。「良くないイメージが抜けない」。ちなみに益留さんは区外在住なのですね。

益留委員：はい。

石阪部会長：それで、良くないイメージが抜けない。これはどういうことですか。

益留委員：ワークショップの要約のところに書いてあったのですが、やはり区内の人たちは足立区が良くなったねという意識はすごく持っているとは感じているのですが、やはり外からテレビを見ていても、足立区を取り上げる時、バラエティで取り上げられると、何か良くないところでいじられているようなところが多いなと感じています。逆にそれを変えるならば、テレビで良くないことをまだ言われているから、テレビで足立区は変わったねとか、話題に取り上げてもらえるような何かがあればいいのではないかと思います。

石阪部会長：そういう意味で広報やPRに関わることもそうだし、それからもう一つは区内と区外との温度差みたいなもので、区内にずっと住んでいる方は、この10年間の変化は実感されているけれども、区外の方のイメージがなかなかそこまで伝わっていかないということがあります。

では続いて「情報の入手が簡単に出来る仕組みが必要」というのはどういうことですか。

益留委員：暮らしていく中で、足立区の中でこんなイベントがあるとか、もっと知りたい人は多いと思うので書きました。

石阪部会長：ホームページや広報だけでは足りないということでしょうか。

益留委員：ちょっと厳しいと思う理由としては、SNSが普及しているし、高齢者の方でもスマホとかを使いこなしている方も結構いらっしゃるの、学生としても一番

触るスマートフォンで、SNSを通じてパパッと足立区のここでイベントがあるから行ってみようと思えるような記事がすぐに見ることができるアプリだとかがあればいいなと思います。

石阪部会長：足立区はアプリ開発をやっていませんでしたか。

地域のちから推進部地域調整課長：防災だけです。あとは、Twitter はよく使っています。

石阪部会長：ではあまり観光情報とか商業情報のところまでは、区民に情報を提供するところまでは行っていないということですか。

地域のちから推進部地域調整課長：Twitter 等で発信はしています。

産業経済部産業政策課長：あとは Facebook ページもあります。

石阪部会長：それをアプリ化するということですか。アプリとして何か提供すると、いろんな有用な情報が得られるということですね。つまり、足立区のファンに対して特別の情報を流すとかですか。

益留委員：例えばライブがここにありますとか、もっと若者が目を引くような話題が多くなるといいかなと思います。

石阪部会長：若者向けの発信を強化してほしいということですね。ありがとうございます。また何かあれば、今度は口頭でお願いします。では続いて大塚さん、お願いします。

大塚委員：公募委員の大塚です。住まいの近くで今回水害が現れてきたので、もし足立区でこういうことがあったら、いわゆる北区の方の情報で、岩淵水門というのがあるのですが、その調整がうまく行かないとこのデルタ地帯が危険になるということですので、それをちょっと考えさせられました。

石阪部会長：ご意見を。

大塚委員：まずは老老介護が増えると今後予想されるのですが、住み慣れた自宅で生活するという理想もありますので、要するに自宅で、そこで住み慣れたところで。かといって、施設に入って二人で生活するということもあります。老老介護はどの施設でというよりも、住み慣れた自宅で生活するという意味ではよいことなので課題として出しました。

石阪部会長：老老介護を抱えると予想されるが、住み慣れた自宅で生活するという理念と両立させる課題。つまりこれは家族介護、家庭での介護ですね。これが増えると予想されるということですね。これは例えば、30 年後を見たときに、おそらく団塊ジュニアの世代が今度は介護が必要になります。そうなった時に、いわゆる家族介護だけで行えるのかというのも、大きな課題です。当面は大丈夫かもしれないけど、私は今 44 歳なのですが、私たちぐらいがちょうど介護が必要になるわけです。そうなったときに家族介護かどちらを望むかですね。私には息子と娘がいますが、どうしようかと今から悩んではいませんが、彼らへの負担をどう考えるかだと思います。自分で貯金を貯めて施設に入った方がよいのではないかな。つまり 40 代の人が介護に対して、介護保険料を払うようになってどう思っているのかはちょっと知りたいところがありますね。

おそらく今のうちの父や母はそうですが、やはり家に住みたいとともに、息子・娘に介護してもらいたいという人が圧倒的に多いと思うのですが、その下の世代がどう考えているのかが一つあるかなと思います。そうすると、足立区の将来はどちらに軸足を置くべきでしょうか。でも、課題としてこのようなことがあるということですね。では二つ目に行きましょう。

大塚委員：健康寿命の課題が一つ挙がっていたと思うのですが、今回防災の関係で東京都から冊子が配られましたが、それと似たようなパンフレット・冊子を区として作れないかなということです。

石阪部会長：健康寿命を伸ばすためのパンフレットや冊子について、防災で全戸配付された黄色いものがありますが、あのような少しインパクトのある冊子を例えば全戸配付するなどですか。特に健康寿命を伸ばす内容のものは作られていましたか。

衛生部こころとからだの健康づくり課長：広報に出して、あとはチラシも裏表で 1 枚あるのですが、チラシは全戸配付ではないです。

石阪部会長：おそらく健康寿命を伸ばすところが結構大事なのですね。足立区の方は健康寿命が 2 歳低いということを知っているのでしょうか。

大塚委員：あまり周知されていないと思います。

石阪部会長：まだ危機感がそこまでないのかもしれませんが。その危機感を踏まえて、例えば防災の冊子などは明らかに危機感があるからみんなあれを手にして見なければいけません。その危機感を克服するために何をすればいいのか、その辺のストーリーがきちんと区民に伝わらないといけないですね。そういう意味では健康寿命を伸ばすためにいろいろあると思います。

では三つ目行きましょう。

大塚委員：足立だけの問題ではないと思うのですが、町会・自治会の加入率が低下しています。行政と住民との関係が明確でないことや、町会・自治会と行政との関係が明確ではないということがあるのではないかと思います。

石阪部会長：いわゆる任意団体ですから、行政が目標に掲げてこれを挙げるということが果たしてよいのかどうかということもそうですが、政策的な誘導というのは必要で、例えば地方でも町会・自治会が成り立たないところがあるとすると、それに代わる新たな住民組織を例えば区が中心になって作ろうなどという動きも出てきています。だからそのあたりをどうするのか。新たなコミュニティの絆づくりみたいなことを区として積極的にやるのか、それともやはり町会・自治会をむしろ強化して、そこにいろいろな地域の担いごとをお願いするような形を取るのか、このあたりは足立区の今後で重要だと思います。今のところ足立区というのは、町会・自治会はかなり力を入れて、それを伸ばしていこうということでやっていますが、30年後となると分からないですね。

地域のちから推進部地域調整課長：分かりません。

石阪部会長：このままじり貧で行ってしまうのか。

地域のちから推進部地域調整課長：可能性はあります。今も加入率がどんどん下がっています。

石阪部会長：若い方やマンションにお住まいの方の加入が厳しいところでしょうか。だからそうなったときに、町会・自治会は今までは住めばそこで払わなければならない義務のようにやっていましたが、新たなコミュニティを考えていくときにこのままでよいのかですね。

大塚委員：マンションなど事実上強制的に管理費の中に入っていますので、形式的には加入率は高くなっています。

石阪部会長：あとは地域的な問題もあるかもしれないですね。加入率が低いところと高いところの差について、今までの足立区のスタンスというのは、低いところは良くない、高いところはコミュニティ・自治があるという考えですが、本当にそれでよいのでしょうか。低いところに新たな動きが出てきているかもしれません。違うコミュニティがそれに代わって出てきていて、町会・自治会を補完するような仕組みがあるのかもしれないし、逆にいらないから単にないのであって、必要なところにはコミュニティは必要ですが、そうではない人にとっては、こんなものは逆にいらないという

積極的な意思表示かもしれません。だから何とも言えないですね。これは良い悪いの問題ではないです。ただ、この辺は 30 年間でどうするかというのは一つの大きなテーマですね。

では次に鈴木さん。

鈴木委員：連合東京の東部ブロックで副委員長をやっている鈴木と申します。私はどちらかというと労働組合が主体ですので、今地域と触れ合う場所が少しずつ少なくなっているなと思います。要は労働組合の加入率もどんどん低下していく中で、やはり自治体とかそういったところも同じようなことが言えると思います。コミュニケーションを形だけのものではなくて、いろいろなニーズに合ったものを少しずつ取り入れていってもらって、その集合体が今の形に戻ればいいかなと。1 回バラバラと言ってしまえば失礼ですが、いろいろな分野があって、それがいずれだんだんまとまってくるという形が一番理想なのではないかと思います。

石阪部会長：例えば、地域と触れ合う場所・時間等々の問題というのは、労働時間が長いということですか。会社に拘束される時間が長いという意味なのでしょうか。

鈴木委員：そうですね。どうしても一つのところに集まる時間帯というのが少なくなっています。

石阪部会長：そういう意味では、この背景にはいろいろな課題があると思うのですが、逆にこのようなニーズを受け止めるだけの市民活動や団体がないとか、例えば家事・育児に追われてなかなかそういうところに行けないという問題も背景にあるでしょう。それからもう一つは、例えばニーズとそれから実際の社会活動がうまくマッチ出来ていなくて、その辺の整合を区としてどう捉えるかなどといった問題も多分出てくるでしょう。

それから伺いたかったのは、働く側として例えば足立区の中小企業がいろいろな意味で生産額等々、工業出荷額を減らしています。この辺についてはどうお考えですか。これは区としてのかなり経済的なものが弱くなっていつているのでしょうか。

鈴木委員：そうだと思いますね。

石阪部会長：働く側としては、足立区で働けなくなっているということでもあるわけですね。つまり人は増えるということです。だけど働く場所は足立区外といったような、なかなか中小企業も含めて自営もままならないとなるとどうでしょう。

鈴木委員：大きな団体に吸収されます。

石阪部会長：それでは小久保さん。

小久保委員：障害者団体連合会の小久保です。私は生まれ育ちが全部足立なので、意外と鈍い方でして、足立というのはとても住みやすい場所だと思っています。何かに付けて便利です。それで、自分で心掛けていることの中に健康管理があるわけですが、これも先ほど前の方が言われましたので、これは同じです。

それから町会の問題が出てきていますが、今本当に町会のつながりというのはだんだん弱くなってきています。強くなっているところは、逆に何団体かの町会が固まって協定でもないですが、結ばれて強まっていくということもあるのですが、何か底辺的には隣組のようなものです。戦前の話になりますが、昔は向う三軒両隣という言葉があったわけですが、隣組が分からないのです。隣に誰が住んでいるかが。古い人同士は分かるのですが。こういうのは、各家のつながりとか、あるいは絆とかと関係して、先行きが大きくは町会の活性化で、今も町会の話が出ていますが、内容的には同じようなことです。

石阪部会長：隣組の復活ということですね。戦前の隣組とはまた違いますが。おそらく防犯とか防災なんかも結構隣は重要ですよ。そういう地域の核となる隣組をもう一度復活させようということですね。

続けてどうぞ。

小久保委員：2点あるのですが、よく地産地消といって、区でもずいぶん話は聞いているのですが、実例的に私の孫が学校に上がる時分になった時に、足立区以外の遠くの人が足立区にはよい靴屋さんがあるということで、わざわざ足立区に訪れてきてくれて、たまたま私の知っている人でうちに寄ってくれて帰られました。やはり地産地消の活性化というのをどんどん図っていければよいのではないのでしょうか。

石阪部会長：地産地消というのは農業分野ですか。

小久保委員：農業分野だけではなくて、今はランドセルの例なのです。

石阪部会長：足立区で作ったものを足立区の人が消費するということですね。

小久保委員：だから産業に関連する取り組みなどをやっているものがあるのですが、実際に家を建て替えて、神棚を取り替えようかというときは、足立区のそういう仏具師とかを利用しているということはありません。

石阪部会長 若い人だと今は全部ネットですね。価格コムっていうのをやると出てくるのです。地元が大事だけれども、その辺をどうやってストーリー立てるかということでしょうね。そのためには足立区のものが良くなければいけない。ちょっと高くてもこれは足立区のものが良いとなるか。でもそれは大事なことです。地産地消、い

わゆる農業分野だけではなくて。

小久保委員：それから最後なのですが、私たちが学校のとくに比べて、ずいぶん道徳とかマナーとかについて親からも言われましたし、学校の先生方も指導をされていたのですが、今は全くマナーとかエチケットとかが薄れていると思います。道徳の復活なんて教育の方では挙げられていますが、何か今更という感じがします。やるならもっと早くやって、いずれ教えたからってすぐ実るものではないですから、これをどう進めたからいいのかが問題ですね。

石阪部会長：誰がやるかですね。学校の先生にそれを任せるのかそれとも何か親や地域の方々がそういった形で啓発をされるのかですね。どちらかということマナーですね。これはしかしながらいろいろな考え方があると思います。道徳の教科化ということに對しては、例えば評価をするのは誰か、評価の基準はどうかと。ただこれは大事ですね。マナーとか道徳ということ自体は。ありがとうございます。

続いて馬場さん、よろしくお願いします。

馬場委員：区議会の馬場でございます。足立区の抱える課題の中で、やはり一番多く区民の健康とか寿命とかが出ているのですが、私もそのあたりではないかと思っています。やはり不健康な区民をいかに健康にしていくかということが、将来の財政的な面も当然関連してくるわけですが、よその区と比べて、足立区にとって大きな課題なのかなと思います。

石阪部会長：健康であるということが将来の医療費や介護費の軽減につながるという意味ではその予防ということですね。ただこちらについては、いろいろな試みをされていて、今結果が今後どうなのかということだと思います。だからそういう意味では、健康寿命をまずは上げていくということですね。あるいは年配の方だけではなくて、若い人も含めて、医療費などを考えると、健康な生活をするなどです。

馬場委員：健康管理に関しては取組む課題は山のようにあると思います。生活習慣や歯の健康とか、もちろん飲み物、食べ物、あとは体力に関してとかさまざまあると思うのですが、少しずつはよい結果が出てきています。犯罪数が減っているように結果が出ているのですが、まだまだ健康診断を受ける人が少ないとか、糖尿病の人がまだ多いといったことは、取組む余地がたくさん残っているということで、これが一番大きな課題だと思います。

石阪部会長：これは 30 年後も健康であってほしいというのはありますから。ありがとうございます。続けてお願いします。

馬場委員：それに伴って、高齢者や医療に関して、子育てもそうなのですが、医療施



設・介護施設、医者を増やしたり介護士を増やして対応するのは、やり方としては簡単なのですが、現実これがもう無理な財政状況でもあるし、高齢者が増えている現状でありますので、やはり今までの基本構想の理念だった区民との協働ということでしょうか。行政に全部頼られても面倒は見切れないというのが近い将来だと思います。そのあたりは足立区としては健康でない人がたくさんいたりする自治体ですので、それは施設ではなくて、先ほど話に出てきた在宅で出来たら医療を受けるとか、終末期を在宅ということもあると思います。結構在宅医療も進んできていますし、薬剤に関しても家庭で使えるものが結構便利になってきましたので、そういう方向に誘導をしていかないと、本当に病気の人に手が回らなくなっていくのかなというところもあります。

石阪部会長：おそらくまずはコストの問題が大きいですね。それからあとはマンパワーですね。現実的に介護者がいないとか。ただ、問題はそれが世代間でかなり違うと思うのです。介護の引き受け手側の若い人にとってみると、家で引き受けるのですか、みたいな。特に女性からはなかなか結構複雑な感想が多分出てくると思います。だから、例えば働きながらも、子育てをしながらでも介護がしやすい環境づくりみたいなものを同時にやっていかないと、多分一部の人に負担が行ってしまうようなことになると思います。自分の親をどのように介護しますか。

益留委員：家にいてほしいとは思いますが。祖父が施設に預けられていてそのまま亡くなったのですが、その時にやはり祖母は寂しそうにしていました。家でなるべく自分で看たいという気持ちは分かります。

石阪部会長：そういう意味では理念としてですね。

馬場委員：以前と比べて介護サービスが充実してきましたし、それを担ってくれる人も増えています。

石阪部会長：在宅の方ですね。それは足立区が一つ戦略的にやっている部分があるかもしれません。施設よりも在宅介護の方に軸足を取っているかもしれないですね。ではたがたさん。

たがた委員：足立区議会のたがたでございます。平成 15 年に今の議員という立場を与えていただいて、ちょうど 12 年ぐらい経つのですが、冒頭に部会長が言っていた通り、12 年前に議員になったとき、当初人口が 62～63 万人ぐらいだったのです。そのときに言われたのは、足立区は将来的には 65 万人ぐらいまで行ったら頭打ちになりますという話でした。そうかと思ったら、この 10 年で作ればエクスプレスが通って、日暮里舎人ライナーが通って、大学がなかったのが今や五つ誘致して、65 万人どころか今は 68 万人近くまで行っているということで、本当にその時に言っていた

10 年後ではないですが、全然違うなということをつくづく実感した次第です。

やはり 10 年、また 30 年先を考えることが必要なのですが、全体会でも主張させていただいたのですが、やはりキーパーソンとなる方は 10 代の若い人間かなと。そこで一番重要なのは、やはり足立区の高校生の中退者の多さで、こちらについていかに歯止めをしていくかということが、やはり 30 年後を見据えて一番必要になるのかなということで挙げさせていただきました。

石阪部会長：中退をすると、結局のところ今はそこから先に職につながっていないということですね。だからもっと言えば中退してもいいけど、すぐにそこからどこかの定職につながるような仕組みがあればいいのしょうけれども、なかなか中退者を支援する仕組みも不足しているし、学校を離れて学籍を離れてしまうと、なかなか今の日本というのは就業につながりにくい問題も多分あるのですね。足立区は特に多いのでしょうか。

衛生部こころとからだの健康づくり課長：23 区で一番多く、毎年 300 人です。

石阪部会長：その辺の原因分析は出来ているのですか。

たがた委員：これからやるようです。

石阪部会長：ちなみに我々も、中退者対策の支援グループを作っています。中退がやはり多いのですね。結局その子たちが将来職になかなかつながっていないところもあって、そもそも原因はどこにあるのか、どうすれば防止出来るのかということと、もう一つは中退した人の後のケアです。これが意外とどこも押し付けあっていてやっていないようです。先生方も忙しい、行政の方も中退した人になかなかこちらから出ていって何か支援するのは難しいということで、この辺が結構浮いてしまっています。まず原因分析と、それから対策をどうするかということですね。

たがた委員：もう 1 つが、高齢者の環境整備ということで挙げさせていただきました。足立区としても今高齢者対策ということで、さまざまな形でやっているのですが、例えばエレベーターの設置とかエスカレーターとか道路の整備とか、出来るところは予算を掛けてやっているのですが、特に足立区は都営住宅が非常に 23 区でも多いのです。いくつかは都営住宅にもエレベーターが設置していないところがあります。それはなぜかという、例えば 1 階に店舗があっていろいろな条件で付けられないなどがあります。また、その他に、バスを使う方がバスに乗るのは苦ではないのだけれども、バス停で待っている時にベンチを置いてほしいとか、上屋が欲しいとかがあります。でもさまざまな歩道の基準で、そこにはベンチを置いてはいけませんということもあり、なおかつまたバス停まで行けない高齢者も最近では増えてきています。だから出来ればバスを通して欲しいなどといった話もあるのですが、そのような高齢者の環境

整備というのは、何かしらの手を打っていかないと出来なかったり、条例で決まっていともう駄目だったりします。

石阪部会長：具体的に規制の緩和が一つあるでしょうし、それから交通空白地帯をなくしていくためのいろいろな整備、それからもう一つは、具体的にはお金の問題も出てくるかもしれませんが、バリアフリーとか、先ほどのエレベーター等々の建物の問題などがあります。

たがた委員：なかなか規制緩和と言いながらも難しい部分があります。

石阪部会長：どの部分を緩和してどこをきちんとするのが結構難しいですね。国の問題も絡んできますからね。環境というと広いですが、いろいろな意味で高齢者が住みやすいまちにしていこうということですね。ちなみに、足立区というのは高齢者が例えば住みやすいまちとうたうのはイメージアップになるのか、ダウンになるのか、どうなのでしょう。区サイドとしてはあまりうれしくないのですか。

たがた委員：住みやすいのはよいことだと思います。

石阪部会長：高齢者にとってということではどうでしょうか。皆さんのご意見を見ると、これが将来像につながってくるところかなと思ったので。

たがた委員：確かに若者が住みやすいまちというのは出ていますね。

石阪部会長：高齢者対策が表に出てしまうのが、区にとってどうなのかということですね。先ほどの健康寿命もそうですし、医療も介護も皆さんのご意見が結構高齢者対策に集中している気がするのですが。となると、これから 30 年の足立区は、「終の棲家足立」とか、「安心して死ねるまち」でもないですが、「老後を送れるまち足立」はどうなのかなという気がしなくもないのですが。言わんとしていることは分かるのですが、今いる高齢者が非常に幸せに暮らせるということについて、やがてみんな人間老いていくのですから、それを充実して迎えられるまちというのは、イメージとしてはすごく分かるのですが、これをただ区の看板にしてもいいのかどうかというところですね。今の話だと、若者というのも出ていますが、ただ若者対策って区としてはやりづらい面もありますね。だとすると、このあたりが一つキーワードですね。これはちょっと置いておいて、イメージとして皆さん高齢者に対して手厚い支援をすべきだという意見が結構多かったということです。

ではおぐらさんお願いします。

おぐら委員：4 点あってほとんどかぶっているの、簡単な方からですね。

石阪部会長：まずは健康についてお願いします。

おぐら委員：これは他の委員の皆さんからご意見が出たのと全く同じです。どうしても足立区は健康寿命が短い、糖尿病の患者数、医療費が 23 区でワーストだったりとかします。地域の身近な方でも知っている方々が、いろいろ生活習慣の中で酒の飲み過ぎで体を壊してそのまま病気をこじらせたり、そういういろいろなところを目の当たりに見てきて、日常生活、生活習慣、食生活の改善。これがでは行政でどう関わっていくかは本当に難しいのですが、足立区もいろいろとベジタベライフ、野菜を食べようとか分析をしたり今まさに始まっているところなのですが、健康づくりは課題として一つ挙げさせていただいたところです。

続いてこれは他の意見もそうですし、この資料の中にも出ていたところで、私の住まいは足立区新田、北区との区界の荒川・隅田川に囲まれた中洲の島みたいになっているところなのですが、ここは本当に面白い地域で、もともと 8,000 人だった人口が 3,000 戸の大型マンション開発で七千数百人人口が増えて、まるで別世界です。3,000 戸の大型マンションの新しいまちと、もともとの町工場とかあるような地域の土着のまちと全く違う生活空間なのです。そこでもともとある地域というのは、本当に昔ながらの下町情緒があって、気さくでよい、人とのつながりを実感出来るコミュニティがあるのですが、その一方で大型マンションは自治会・町会もないですし、賃貸になると入れ替わりが激しくて、コミュニティ自体が作れない。分譲マンションだと管理組合があったりして、マンションの中でクリスマス会や交流イベント、ラジオ体操など、分譲マンションは中で結構催しをやったりしています。防災訓練をやっていたりもします。特に賃貸ではコミュニティ・交流が少なく、どうこういうところを地域の人たちと接点、マンション内でも接点を作っていくって、関わりを持ってやっていけばいいのかなというのは試行錯誤しながら答えが見つからない状況です。

石阪部会長：そういう意味で、混住地域というのでしょうか。昔からあるところと、マンションが結構あるところと。これは課題なのですが、今はどちらかというともともと住んでいらっしゃる方の意見だと多分そういう意見になると思います。逆に賃貸マンションに入ってきた方からすると、昔ながらのいろいろな行事に出るのが面倒だとか、お金も負担しなきゃいけないとか、いろいろな多分意見が出てくるのではないのでしょうか。

おぐら委員：仕事が忙しくて関わっている暇がないとかですか。

石阪部会長：そういうのがないからここに入ってきたのに、そのようなものがあつたら面倒くさいという意見も持っていていらっしゃる。そのあたりについて、区としてはどういうことが一番理想なのか。お互いの言い分というのがある中で、そのあたりが難しい問題ですね。

おぐら委員：それと関連したところになってくるのでこちらを先に挙げます。ちょっと違った視点で、ワーク・ライフ・バランスというのを挙げさせていただきました。他の委員からもありましたが、現実問題仕事がなかなか忙しくて、一緒に生活はしてみたいけれども、確かに親の介護もとても看切れないだとかがあります。子どももそれは小さい時は一緒に母親と父親と一緒に生活をしてやっていければ理想ですが、働かざるを得ないという状況があったり、なかなか子育てと仕事との両立、親の介護と仕事との両立であったり、長時間労働も課題になっています。その中で地域との交流であったり、家族との時間であったり、仕事以外でのいろいろな生活のバランスについて、では行政でどう関わってどうやっていけばいいのかというのは、本当に一地方自治体の中で難しいところではあるのですが、課題の素材として一つ挙げさせていただきました。

石阪部会長：おそらく日本人の働き方というのが、休みをもらっても結構困る人も多いらしいのです。一度、区役所の職員研修で、代休をもらうのと残業代をもらうのはどちらがよいかという話をしたら、代休をもらいたいという人は誰もいませんでした。やはりお金が欲しい。そのために土日もあるという意見が結構多くて、やっぱり結局日本人は働きたいのだということです。それでお金がある程度入ってきた方が、休むよりいいと思っている人が結構いると。これは海外の人とは真逆です。なぜ休む権利があるのに休まないのかという考えです。だから働くことを美德としている国民性というのはあるし、私も勤勉だったらすごくよいと思うのですが、反面ちょっと働き過ぎではないかと。

おぐら委員：弊害がメンタルヘルスの問題もそうですし、地域・家族や子育てとかにもあると思います。だからそのあたりがバランスだと思うのです。

石阪部会長：だからこれがある程度ベーシックなところが出来ていないと、多分他にいろいろ言ってもなかなか難しいのかなと。

おぐら委員：全部子育て、では保育施設を作れば解決するかというと、そういう問題でもないと思いますし、介護でもそうですし。その辺のバランスが難しいなというところですね。

これもちょうと他と同じ意見なので簡単に挙げます。孤立の問題です。高齢者の孤立であったり、生活困窮者であったり、これは高齢者に限らずいろいろな世代での孤立というのを生活している中で感じます。だからこそ地域のコミュニティというか、それぞれ立場・職種が違って出てくるのだなというのはすごく感じるところです。

石阪部会長：孤立ゼロプロジェクトというのがありますね。

おぐら委員：高齢者に対して、75歳以上の単身と70歳以上の高齢世帯夫婦、全世帯

に現在調査を掛けています。

石阪部会長：これはすごくユニークな取組みですが、これを 30 年後まで考えていく中で大丈夫ですか。これは全地域でうまく網羅的に出来るようになるのでしょうか。今、地域包括がやっているのでしょうか。

おぐら委員：そこから今地域包括につなげて、それぞれの状況に応じてやっているところですよ。

石阪部会長：取組みとして面白いですね。孤立を防ぐためのいろいろなプロセスを足立区は用意してきたということですね。

おぐら委員：まずは実態のあぶり出しですね。今までありませんでしたから。

石阪部会長：あとは若い引きこもりとかニートとかについてですね。

おぐら委員：そこも調査を掛けたりして、まさに足立区は先進的に取り組みを始めているところですよ。

石阪部会長：ちなみに今回、貧困対策について全然出ないですが、よろしいのでしょうか。

おぐら委員：今子どもの貧困対策を行っているところですよ。

石阪部会長：あれはメインが子どもですね。ここではあまり貧困は出ていないですが。

おぐら委員：私はその中の課題として一つ挙げました。

石阪部会長：ちょっと思ったのは、例えば健康づくりの寿命の問題も、所得と例えば寿命の相関はあるのですか。

おぐら委員：比例していると思います。

衛生部こころとからだの健康づくり課長：今そういうデータを取っているのですが（関連は）あります。糖尿病は実は所得の低い人の方が多いという、これは足立区ではなくて、全国のデータで特定健診をベースにしてやっている学者さんがいて、そのデータを見せていただくと、300 万円以下の方に糖尿病が多くて、300 万以上になると少ないという、今や贅沢病ではないということです。

おぐら委員：両方の側面があると思います。所得が低くてなかなか医療費が掛かるから、もったいないので多少体が悪くても我慢しているという側面と、意識が低いという側面とがあると思います。

石阪部会長：それと、どちらかというとファストフードとか、カロリーの高い低価格なものを摂取するとかですか。

おぐら委員：安くて腹持ちがよいものということです。

石阪部会長：野菜とかも高いですし、まともに買おうと思うと。

衛生部こころとからだの健康づくり課長：補足しますと、絶対イコールではなくて、その間がいろいろあると思います。だから逆は必ずしも真というわけではないです。ただ、そう考えるかということそう考える。ただ、その間をきちんと見て対策を打つべきだと思います。

石阪部会長：こちらについては原因分析が難しいですね。例えば所得だけでもないでしょうし。

おぐら委員：複雑に絡み合っています。

石阪部会長：だから（健康寿命を）2歳を上げるというのは抜本的な解決というよりは、一つひとつ原因分析していったって、それを埋めていくしかないのかなという感じがします。ただ、一つ所得との関連というのは、僕は高そうな感じもするのですが。これはあくまでも仮説ですが。だからそういう意味では足立区の一つ抱える課題というのは、貧困対策や所得が不安定だということによるさまざまな問題ですね。

おぐら委員：教育も見事に比例しています。23区で、平均所得と子どもの学力が比例しているなどです。

石阪部会長：だからといって、行政がそこまで先導して所得を上げるというのはなかなか難しいでしょうから。そうすると、ではどうするのかということになります。もっといえば、低所得であっても豊かに住める区というのも一つのアイディアとしてはあり得ますね。

皆さんからいろいろいただき、今書いていただいたのですが、Twitterの説明でいろいろ皆さんから出てきた将来の課題についても書いていただいていますのでちょっと見ていきたいと思います。まずは皆さんからやはり一番多かったのは高齢者に関わる部分、これをどうするかということです。区民の健康を含めた高齢者対策をどうするのか。それから、今出ていみせんでしたが、生活保護対策や弱者支援のようなも

のです。若者支援も含めて、そのあたりも一つ大きなところかと思います。包括ケアもそうですし、介護をどうするか。でも家族介護にするか、施設介護にするかというのも、これも政策的な課題ですが、少なくとも不安があるということは皆さん一致しているわけです。このまま行くとまずいということです。

それからもう一つはコミュニティの問題です。特に皆さんから出てきたのは、マンション・アパートで賃貸に住んでいる方と分譲の方、かつ昔から住んでいらっしゃる方、いろいろな方々がいらして、統一的な自治会・町会活動がなかなか難しくなっている。つまり、いろいろな皆さんの考え方があるので、既存の自治会・町会というのはそこまで広くないのかもしれないですね。フレキシブルではないと思うので、そのあたりどうするのか。今後 30 年を考えると厳しいです。

それから、あとは子どもたちも出てきましたが、やはりイメージの問題とかマナーの問題もありました。それから若者をどうするか。それから地産地消というのもありましたが、足立区もかなりいいものは作っていますし、農業分野だけではなくて、工業分野等々まで広げればかなりのものがあるのですが、ただ、足立区でそれを作っているというのは、結構知らない方が多いのではないのでしょうか。ランドセルを作っている、これが足立区製だというのは知らなかったりするし、足立区の会社だというのを後で知るといことです。そういう意味では、今までの既存の足立区の会社のアピールの仕方というのは、同業者はもちろんみんな知っていますが、区民の皆さんはご存じなのではないでしょうか。

産業経済部産業政策課長：どちらかというとは今は区外向けというのはありますが。ただ、あだちメッセという産業展示会などは区民の方にも来ていただいて、区内の企業も知ってもらおうと取り組んでいます。

石阪部会長：そういう意味では、一般の来場者もいますから、そういう方に地元でこういうものを作っているというのは区役所の下にも飾ってありますね。ただ、今回は出ませんでした。農業分野というのでも先ほどの皆さんのご意見の中に書いてあったのですが、これはどうなのでしょう。足立区における農というのは。いろいろ生産はされていると思うのですが、なかなかブランディングまでは行っていないのかなと思います。

産業経済部産業政策課長：今商工会議所が中心になって、小松菜のうどんがあります。先日も千住ねぎの復活ということで、小学校で種をまくという取り組みとかもあります。

石阪部会長：食育に絡めていろいろやっているということですね。そういう意味では、23 区内でもこんなブランドがあるということが地域の人に分かれると面白いと思います。意外に農業区足立みたいなものをアピールすると目立ちます。農産物を発信するというの、23 区で足立区他にはないと思います。



では皆さんからだんだんいろいろ挙がってきましたが、補足はありますか。皆さんのご意見を聞いて、ここはもうちょっととか、どうでしょうか。

大塚委員：例えば私の住んでいるところは、いわゆるバス路線があるものですから、交通空白地帯ではないのですが、要するにバス中心ですから、舎人ライナーの駅までは現実的に使っている人はあまりいないです。そのあたりのマンションに住んでいる人は使っているようですが、それ以外の人はバス路線を使っているようです。ということは、バス路線がいくつもあってそれはいいのですが、道路が狭い。道路が狭くて先ほどバスを待っていると高齢者がどうのというのがありました。バス停ですね。バス停がどうしても必要で、コミュニティバスもありますが、道路が狭いのでバス停がなかなか。もちろん作ったのですが、道路に作ったせいでバス停と歩行者の関係がですね。

石阪部会長：ただ、一つはこれから高齢者が増えていく、充実させていくところで、コミュニティバスを走らせる。ただ、コミバスというのはどこの自治体でも大赤字ではないでしょうか。

福祉部高齢サービス課長：以前コミュニティバスの担当をやっていたので申し上げますが、足立区のコミュニティバスについては、足立区は委託をしておりますので、バス会社の自主運営です。走行開始の際のバス停の整備ですとか、そういったものにはご協力をさせていただいていますが、走った後は自主運営をお願いしています。

石阪部会長：統廃合もあり得ると。

福祉部高齢サービス課長：なくすことはやめてということは言っていますが。ですから、多少増減する路線があるのは、バス会社の都合ということになります。

石阪部会長：おそらく全国的にコミバスは厳しいですね。

おぐら委員：大赤字で、いっぱい補填して何とかという。

石阪部会長：私もよく自治体に行くと、これをどうするかという議論があります。いわゆる交通空白地帯をなくすことは大事ですが、足立区みたいなやり方というのはいいでしょうけれども。

おぐら委員：赤字路線が削られているというのは、やはり利用者が少ないものですから。ただやはり地域の人たちからすると必要という、そのあたりが難しいです。

石阪部会長：だから本当に病院に行くとか介護で必要な人をどうやって搬送するかと

いう、そのあたりの課題が出てきますね。買い物に行くバスはしょうがないにしても、最低限の生活は。地方などは逆に売りに来ます。だからそういったことがひょっとしたら都心でもあり得るかもしれません。今の高齢者対策として、高齢者が住みやすいまちみたいなものは一つ出てきますね。小久保さん、どうでしょうか。

小久保委員：ないのがちょっと気になるのですが、文化的なこととか、文化協会・体育協会が確か区の中にあると思うのですが、それが意外とあること自体を知らない人がいますし。もっと先に向けてどんどん宣伝していくべきだと思います。

石阪部会長：足立区は区を挙げて支援するスポーツクラブはないのでしょうか。私が住んでいるところだとサッカーのJ3があるのですが、みんなでサッカーの応援に行ったりしています。

小久保委員：体育協会の中にはいろいろ、陸上とか野球とかいろいろなのがあって、私もラジオ体操をやっていますし。それから文化団体の方では、三曲という分野の音楽に参加してやっているのですが、何か文化的な内容が。

石阪部会長：この中にないですね。一つは区民が親しめるような文化的なものや、体育的なスポーツ施設みたいなものを充実させて、みんながそういうものを楽しめるというのと反面、音楽には芸大がありますが、スポーツの分野で区を引っ張っていくような。例えば隣の墨田区なんか、フットサルチームがありませんでしたか。

小久保委員：全国大会などで優勝して表彰しているのはどこでしょうか。

地域のちから推進部地域調整課長：教育委員会の方で表彰しています。子どもたちについてはですが。

福祉部高齢サービス課長：一応、足立区体育協会というものがあって、体育協会に加盟している団体も相当数ありますが、記憶が正しければですが、体育協会に参加している団体の参加者については、3万人以上確かいるとおっしゃっていた気がします。全国大会で優勝されたりしますと、今課長からも答弁がありましたが、教育委員会で表彰させていただくとともに、区長の方に表敬訪問していただいたり、いろいろなことはされていますが、今委員のご発言にありましたように、区を挙げて応援するというものは特定のチームに対して行っていることはございません。

石阪部会長：そういう意味では今度、オリンピック・パラリンピックも開催されるという中で、足立区としての色を出す何らかの手立てというのが多分必要になってくると思います。そういう意味では、クラブとは言わないけれども、特定スポーツを区を挙げて盛り上げていくという仕掛けも、今回の基本構想とはあまり関係ないかもしれ

ませんが、スポーツというのは健康寿命にもつながってくる部分が、スポーツや文化というところで。だから長生きをするという意味で言えば、生涯にわたって運動とか健康に関わっていくことは必要だと思います。

子どもたちも結構、例えばラグビーワールドカップが誘致された。すると埼玉の熊谷なんていうのは誘致が決まっているので、子どもたちにとにかくフットボールをさせようみたいなことで、小学校でみんな練習をしてみたり。そうすると子どもたちが思い出になるわけです。ラグビーのまちで売り出すことも出来ますし。それからやはりサッカーでまちを売っているところもあれば、あるいは逆にマイナースポーツで、足立区でも何かありませんでしたか。ブラインドサッカーとか。

福祉部高齢サービス課長：記憶が正しければですが、今月だか先月だかブラインドサッカーの大会をやっていました。あとは最近テレビでよく取り上げていただいているのはトランポリンが優秀だということもあります。

石阪部会長：マラソン大会とかやっていましたか。

福祉部高齢サービス課長：タートルマラソンが有名でして、あとは中学生の子だったと思いますが、東京都の駅伝大会で上位に入っていたり、最近ベルクスが駅伝部だか陸上部を作ったという話をお聞きしたことがあります。

石阪部会長：先ほどの若者向けの発信というところの中で、例えばスポーツの情報なども、足立区にはこんなすごいチームがあるとか、選手がいるということが発信出来れば一つの売りになりますし、そういう意味ではいろいろな分野で可能だと思います。昔なら甲子園に出たとかそんなことぐらいでしたが、今ならいろいろなジャンルのPRが出来ます。スポーツなどにもつながってきます。だから今後、多分一つ核になるのは、どうも健康で長生き出来るということなのかなと思います。そういうものをいろいろなところから結び付けていく。つまり、健康で長生き出来るまちというのは、高齢者にとっても住みやすいまちですし、若者もそういったまちに住みたいということになります。例えば将来住むのであれば、健康なところに住みたい。ではその健康を維持するためには何が必要かという、例えば健全なコミュニティであり、かつスポーツ・文化であったり、それから福祉であったりというところにつながってくるわけです。だから皆さんのお話を聞いていると、やはり健康というのが核に来るのかなという話ですが。ただ例えばですが、貧困の問題とか、それから産業の問題、中小企業が多いとかそのあたり、例えば障がい者の問題、小久保さんいかがでしょう。足立区はよくやっている方ですか。

小久保委員：だと思います。

石阪部会長：そういう意味では、今のことも全部こういうところにつながってくるわ

けですね。ではもっと健康に対しての具体的なイメージを皆さんから伺っていかなければいけないし、健康だけでは駄目だと思います。将来、計画で健康、そのために何が必要なのかということですね。

聞きたいのは、高齢者のところは結構出ましたが、コミュニティから行きましょうか。皆さんは町会・自治会には加入されていますか。何%でしたでしょうか。

地域のちから推進部地域調整課長：今 56%です。

石阪部会長：それを考えると、それが地域の自治を担うという、つまり 5 割しかいない人口がです。当面これに代わるものはないわけですね、足立区として。地域の自治を担っているものは。

地域のちから推進部地域調整課長：大きなものはないです。

石阪部会長：他に何かあるのですか。個別に例えばこの地域では自治会・町会がないのでこれがとか。

地域のちから推進部地域調整課長：先ほどから出ているマンションや何かで、管理組合でコミュニティ活動を行っているところもないわけではないです。

石阪部会長：管理組合は自治会・町会には入れないのですか。

地域のちから推進部地域調整課長：入れるのですが入らない。

石阪部会長：なぜですか。

地域のちから推進部地域調整課長：マンションはマンションの中で生活が成り立っていて、他から何かといっても、必要ないと思っている方が多いのではないかと思います。

石阪部会長：そうなってくると結構厳しいですね。

おぐら委員：だからマンションの組合を、実際に機能しているところは、今の国の法律でマンションの管理組合も自治会・町会と全く同じ役割なので、そのままイコールで認められないかということは、我々議会の他の議員からもそんな意見が出ています。

石阪部会長：将来的に新しい自治の形と言うか、コミュニティの形みたいなものは、私は必要だと思います。自治会・町会がじり貧の中で、このまま行くと 5 割を切ってしまう。その中で地域の自治をここだけが担っているという将来像は、なかなか

自分の子どもや孫に対して言いづらいところもあるので、何か地域のことは自分で解決するような新たなコミュニティ支援策はどうでしょう。

馬場委員：地域コミュニティ、きっかけづくりの大きな一つは、子どもを通してご近所とのというのがまず第一です。子どもが少なくなってきたので、子どものいない世帯もずいぶん流入してきているので、コミュニティが少なくなっているということです。ですから、まずは子どもをきっかけにしたコミュニティづくりをしっかりと。それが子ども会なのかPTAなのか、そういった細かな活動も絶やさずに行うことが一つだと思います。あとは地域で住区センターとか、いろいろなコミュニティの場所はあるのですが、それぞれのきっかけづくりだと思います。残念ながら地域のお祭りとかがだんだん縮小傾向なのかもしれないのですが、やはり神社の祭りはもともと中核のお祭りでしたが、今は地域とのコミュニケーションのためにやっているわけですから、そこへの誘導と言うか、最低限お祭りはなくさないようにしていくというようなことだと思います。

石阪部会長：独身の時というのはほとんど地域に関心は持たないですよ。それがやがて結婚して子どもが生まれると、今度は子どもを通じて地域の中でネットワークを作っていくわけですね。やがて子どもが成長していくと、いったんコミュニティとはまた距離を取るようになって、今度は老年期が近付いてくると自治会とかそういうものに加入していくというのが、今までの日本のコミュニティのあり方だったと思うのですが、私はその局面ごとに関わりのあるコミュニティを作っていく必要があると思います。自治会・町会ってどちらかというと今までのイメージは年配の方、どちらかというと、仕事をリタイアした方が名誉職的に入ってくるケースも多いですし、場合によっては当番制でいやいや入っている人もいるかもしれない。そうではなくて、例えば働く世代になった時には、同じ問題が共有出来て、地域の中でその問題を共に解決出来るような同志みたいなものが地域にいとすごく心強いし、そういうものが必要なのではないかなと思います。

だからいろいろな団体があってよいと思います。一つの自治会とかではなくて。だからコミュニティのあり方を考えたときに、重層的というか、多様なコミュニティを作っていくことも足立区の一つの売りになるかもしれません。逆にチャンスかもしれません。自治会がこれだけじり貧になってきて、かなり厳しい。みんながその厳しさを共有したときに、では新たな地域の団体を作ってみよう。特に若いお父さんやお母さんあたりが中心になってやってみようなんていう動きが出てくれば面白いです。

あとは独身の若い子たちが何か地域で面白い活動を始めたとか、コミュニティビジネスみたいなことを始めて、そこで地域の地場産業と連携して何かやろうというのもある種のコミュニティです。コミュニティ活動は、結構これからの10年、30年を考えていくと変わって行かざるを得ないのかなと思います。

馬場委員：一つの流れとしてお話をさせていただくと、例えば子どもを通して PTA とか同級生の親の交流が出来たその流れが、今は SNS を使っているので、5年、10年経っても続いているケースが多いので、そういった LINE 仲間みたいなものがこれからは残っていくような気がします。それをうまく仕掛けをたくさん作れば、いわゆる子育てが終わっても続くのかなと思います。

石阪部会長：結構地域コミュニティは子育てが終わると一度切れます。だから中学校の PTA で一度切れて、そこから先につながらないケースが多いので、そこからは SNS でつながるような仕掛けを用意するとか。もっと過激なことを言うと、バーチャルコミュニティの話で、顔は合わせないけどみんな SNS でつながっているとか。何かあったときに情報共有出来たりとか、それこそアプリが出来れば、そういうことだって可能なわけです。何も土曜日の月に1回集まってみんなで何かやらなくても、新たなコミュニティの形というのは考えられるわけです。だからこれからの子どもや孫の世代を考えると、いわゆる毎月出てくるような、毎月何か同じことをやるコミュニティではなくて、何か自分の入りたいコミュニティに SNS で入れるとか。積極的に行きたいものに行くというあり方もあり得るかもしれません。現実的には遠い話ですが、そうすると夢が出てきませんか。やらされているコミュニティではなくて、自分から主体的に参加出来るコミュニティを作っていく。そうすると、さっきおっしゃっていただいたように、空いた時間とかそういうところで自分の好きなことをつながっていくサイトがあって、そこで地域活動が出来る。だから何か地域の団体活動ってすごく大事だと思うのですが、反面で今のやり方や自治会だけじゃないのですが、地域団体のあり方というのは、どうしても若い人からするとちょっと古いなとか、取っつきにくいところがあるので、そのあたりで若い人が入りやすい仕掛けがあるとよいかなと思います。

馬場委員：新しい流れが出来てくると思います。今は例えば町会の役員の方々というのは、LINE をやっているわけではないし、Facebook をやっているわけではないのですが、今の40代、50代の人が、10年後、20年後はそういったもので町会運営とか連絡をするようになるだろうと。

石阪部会長：わざわざ紙媒体は必要がないわけですし。そうするとコストも手間も。まだちょっと早いかもしれないですが、将来的にはですね。どうしてもそれが出来ないというところはアドバイスをしてあげるとか、紙媒体で別にとということになると思いますが。これって今そういう動きはないのですか。LINE とかネットを使って情報交換しているとか。

地域のちから推進部地域調整課長：メールを使っている方は既にされています。あとは状況を1点だけ言わせていただきたいのですが、実は平均は56%ですが、高いところは100%、80%のところがいっぱいあります。平均だと56%ですから、まるっ

きり低いところもあります。地域によっては 80%を超えているところもあります。足立区全体で一言では言えないという現実があります。

石阪部会長：そういう意味では、コミュニティのところの一つの課題としては、地域のアンバランスと言うのでしょうか。そのあたりもつまりそのおそらく低いところというのは、どういうエリアが多いのでしょうか。

地域のちから推進部地域調整課長：エリア的に言うといろいろ問題があるので。

おぐら委員：傾向として大型マンションの賃貸のところだとか、新しい戸建て住宅が多いような地域というのは低い傾向があります。

石阪部会長：高いところというのは、昔から住んでいらっしゃる方が。

おぐら委員：あとは都営住宅です。

石阪部会長：それからもう一つは、あまり出なかったのですが、若者です。やっぱり若い人が住みたい、このまちで暮らしたいと思うような地域にしていくためには、これだけだとかどうか。特に思ったのは、親元に住む若者が増えているというのはそうなのですか。例えば大学や高校を出てそのまま住んでいるとか。

小久保委員：逆に親を扶養するとか。

石阪部会長：これはよいことなのですか。

小久保委員：よいことだと思いますよ。介護につながります。

石阪部会長：むしろ親元居住の若者を奨励する区として支援するのも悪くはない。そういう話だと、将来は親と一緒に住んでもらって、それを相続すればそこにまた住むことが出来るとかですか。

馬場委員：都心区と違って、足立区にはまだ若者が住めるような安い住宅もありますし、例えば古い家であれば庭先の駐車場をつぶして家を建てたり、二世帯も可能ですし。それと足立区の若者って、区内の高校に行って区内の会社に勤めて、結婚して区内に住むというケースも結構多いです。住みやすいというイメージにおいては、それはそれで一つのよい流れなのかなと思います。

石阪部会長：そういう意味では面白いかもしれないですね、そういう区の特徴がもしもあれば。普通はどちらかというと流動するではないですか。だからそうやって昔か

らの足立区が、そのまま将来の足立区に定住をする。そのために区としては支援していくというような、これは面白いかもしれないです。親元居住を奨励するとか、あるいは親の近くに住むとか、そういうものを奨励していくみたいな。23 区では結構珍しい支援の仕方だと思います。地方では結構多いですが。移住などではよく地方ではやっています。親元の近くに住むと、地区内に家を建てるといくら出すということをやっているところがあります。

たがた委員：今、いいか悪いか別としても、ワンルームマンションが結構増えてきています。それを悪用してやっている事業者も出てきているのですが。

石阪部会長：今後文教大学が入ってくるとあのあたりも増えるかもしれないですね。だからこれはどちらにもなるわけですね。親元に住んで自立が遅れるという側面もあれば、逆に足立区民はこれで1人増えているわけですから、そういう意味ではこれをうまくここで住んでもらって子育てまでしてもらおうところに持ってくるということのもありかなと。

そろそろ時間が来ましたが、もし皆さんからご意見で言っておきたいことがあれば。次回も引き続き話し合いは出来ますが何かありますか。

おぐら委員：孤立ということで、生活困窮者・高齢者・ニート・引きこもりの孤立というのがあったのですが、まさにそれと関連するところで貧困の課題について、足立区は生活保護受給者が23区でもダントツに多いというところで、そこを課題の中の一つとして、しっかりと議論をして何かしらの集約が出来ればと思います。

石阪部会長：いろいろな考え方があるので、生活保護の問題も結構難しいです。でもこれ自体が一番自治体がやりやすいのは予防策でしょうか。生活保護にならないためにどうするのか。

おぐら委員：働いていたけれども体を壊して働けなくなって、貯金もなくなったとか、不景気の影響だったり、そもそもその人自体にいろいろなスキルが乏しかったり、人とのコミュニケーション能力だったりいろいろな背景があるので。あとは高齢者で年金だけだとそのまま家賃が払えなくて底を突いたりなどです。

石阪部会長：このあたりも大事です。中退者とかニートになった人がなかなか定職に就けない。これが将来の生活保護予備軍と言われていて、ここで正社員に就職させておけば、大体1億から2億ぐらい財政の圧縮につながるのです。そう考えてみると、若者の時からある程度予防策としてやっていくことが大事で、いろいろなものが絡みます。一つの極としては健康やコミュニティ、このあたりも大事でしたし、それから介護も出ました。いくつか出てきましたので、今日はちょっと時間の関係もありますので、また次回以降、ある程度整理をいただいて、これをちょっと集約する形になり



ますかね。

事務局（コンサル）：論点が錯綜していますので、次回はこういうところが論点になっていますというのを整理して、例えばどの辺がもっと大事かというのを深めていただきたいと思います。

石阪部会長：赤で囲ってもらったところが一つの大きな見出しになっていますが、皆さんから出していただいたご意見は大体こんなところに集約されるのかと思います。あとはこれをもう少し絞り込んで、これを将来的にどうするのかということを次回、将来像であったり、理念の方に結び付けていかなければいけないので。どちらかというと、これからはこれをまとめていって、もうちょっと抽象化する。そして、比較的いくつかあるものをまとめるので、具体的な名前はあまり出ないかもしれませんが、こういう足立区になってほしいという思いを描ければと思っています。

さて、いかがでしょうか。次回以降も皆さんからご意見をいただけるような仕掛けを作って、まとめる作業をしていきたいと思っています。

## 5 事務連絡

基本構想担当課長：事務局から次回の開催についてご連絡がございます。次回は9月28日の月曜日、午前10時から12時です。会場は変わりまして、中央館8階特別会議室となります。なお、もしもご欠席となる場合には、これまでと同様に電話やメール等で事前連絡をいただけますと幸いです。本日は誠にありがとうございました。お車でお越しの方は、出口付近の係員にその旨お伝えください。

午前11時30分 閉会